

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

栗原農業改良普及センター

実施月日：令和4年9月7日
実施場所：栗原市築館ズッキーニ圃場
栗原合同庁舎

1 検討内容

No	検討項目
1	プロNo.1 人と環境に優しいズッキーニ栽培と収益力の向上について
2	令和4年度普及指導計画及びプロジェクト課題No. 2～4の取り組みについて（報告）

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
上記1-No. 1	4.5	<ul style="list-style-type: none">作業労力の軽減、収量及び品質の改善、収益性向上に結びつく栽培方法であると思われます。強風時の対策ができれば普及拡大が可能と思われます。設備投資少なく、地域協力して産地化に取り組める品目のネック（腹白規格外品の多さ、省力品目と言われながらの作業負担）の解決に直結した取り組みであることを実感しました。立体栽培を行った結果、風の影響を受けやすくなり、一部、折れてしまった作物が発生していたが、従前、半分程度発生していた腹白果が発生せず、全量出荷できるとのこと。また、密植が可能で収量の増加も期待できるとのことであった。デメリットを考慮しても、収量や良品率の課題解決策として、すばらしい成果であると評価できる。社会情勢、生産者の高齢化を見越した立体栽培は大きく評価できる。収益面では、相場やコロナの影響によりトレンドが一定ではないため、外食産業がメインのズッキーニはスーパーマーケットの定番コーナーに陳列できるようズッキーニ自体の認知やシェア拡大に向けた取り組みが必要と感じて	<ul style="list-style-type: none">立体栽培については、今後、実証ほの結果等を取りまとめ、部会と連携を図りながら地域に適合した技術の組み立て、普及を図ってまいります。今後も環境に配慮しつつ、収量及び秀品率の向上、作業労力の軽労化など、生産現場の課題に即した生産性の向上支援に加え、地域特産化に向けた産地PR活動等、生産及び販売の両面から生産者を支援してまいります。ズッキーニの生産振興と合わせて、他の園芸品目の振興にも引き続き取り組んでまいります。

	<ul style="list-style-type: none"> いる。 産地PR等の販売にも力を入れているところがとても評価できると思います。売れる野菜のイメージがないと後継者が出てこないと思うので。 部会長や部会長のご家族のお話からも、部会の皆様と普及が目標を共有して取り組んでおられることを感じました。 米が消費減少と米価低迷する上でより単価の高い園芸を振興することは大切なことだと思います。農業者の高齢化が進んでいく上で省力化が課題かなと思います。 	
上記1-No. 2	<p>(全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模水田経営において、なんとと言っても大豆の収量安定や需要安定が見込める加工用ばれいしょの生産確立は経営力強化に直結する課題と思います。 排水条件等で固定転作にならざるを得ない圃場での経営条件に合った輪作体制づくり等も含め、ぜひ成果を期待しております。 法人化に向けた取組は前例の好事例、悪事例を普及センター内でコミュニケーションをとり、新規法人化の参考にしてほしい。 これから増えそうな集落営農を課題にするのは良いと思いました。課題No. 1と同じように、生産だけでなく販売まで力を入れて欲しいと思います。 地域農業を発展させていくためには、Uターン、Iターンなどの若年農業者を積極的に受け入れていくことが大切だと思います。 <p>(No. 2について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械化、労働力確保に向けた支援が必要かと思います。 <p>(No. 3について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地集積、各品目単位の収益性向上、法人化後の自立性が必要と思います。 <p>(No. 4については)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大豆の反収増、品質の向上のための支援が必要かと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き、水田経営における高収益作物の導入や栽培技術の向上、地域の課題解決を支援し、担い手経営体の経営安定を図ってまいります。 集落営農の法人化に当たっては、所内における情報交換はもとより、各関係機関との連携を密にし、外部専門家等を活用しながら支援してまいります。 農業の各分野において将来を担う農業者の確保は急務となっています。今後も、技術の確立や発展的経営計画の作成など、農業人材の育成に力を注いでまいります。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 栗原の農地の約半分は中山間地にあると思いますが、そのようなところでは耕作放棄された農地が数多く見受けられます。中山間地域においても圃場の整備が急務ですので、県や国の事業を活用して指導していただければ有り難いです。 御出席いただいた農業士会会長を始め、畜産農家の皆様には、現在、経営努力の範囲を遙かに超えた飼料費高騰、特に酪農経営は子牛価格急落も含め、ぎりぎりの状況と思います。支援できることも少ないのが本当につらいですが、経営計画、検討等を希望される方には、普及センターと協力して少しでもお手伝いしたいと存じます。 数年前から比べると農業改良普及センター職員のダイバーシティ取組みなのか、女性職員が多くなったと感じた。今後の農業発展に女性の視点は不可欠と思うので、ぜひ良き見本となっていただきたい。 次回も、現地視察など生産者と意見交換ができる検討会を望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業者の高齢化や耕作放棄地の増加、鳥獣被害の拡大等、中山間地特有の課題が日々深刻さを増しています。普及センターとしては、上記の課題を含め、地域全体の課題を整理し、早急に取り組むべき課題について支援策を検討し、市をはじめ各関係機関と連携を図りながら地域の課題解決に向け重点的に支援してまいります。